

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析結果と

## 今後の取り組みについて

令和4年10月 小城市立晴田小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年 国語科 算数科 理科）の結果をお知らせします。また、生活習慣に関する意識調査について、数値が高かった項目と、低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。

### 【全体の正答率について】

6年国語科：県平均をやや下回る。  
6年算数科：県平均とほぼ同じ。  
6年生理科：県平均とほぼ同じ。

### 【生活習慣に関する「質問紙（意識）調査】

#### 【数値が特に高かった項目】

番号	調査項目	自校	県
1	朝食を毎日食べていますか。	93.5	83.8
2	困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつも相談できますか。	37.0	30.9
3	家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。（先生に聞くの割合）	50.0	31.4
4	今、住んでいる地域の行事に参加していますか。	43.5	31.9
5	5年生まで受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	34.8	22.6

#### 分析と取り組み

- ・「朝食を毎日食べていますか」の質問に対し、「どちらかといえばしている」を含めると100%になり、良い傾向が見られた。
- ・地域の行事に参加する児童の割合が多いのは、青少健が定期的に開催している土曜教室等に参加する等、児童にとって地域行事が身近で、参加しやすいものになっているからだと考えられる。また、日頃より様々な学校行事等に対して、青少健をはじめとする地域の方が非常に協力的であるためだと考えられる。学校と地域が協力して子どもたちを育てるという意識が高く、今後とも連携を深めていきたい。
- ・本校の児童にとっては、先生は相談できる存在であることが伺える。これからも教師と児童の信頼関係を構築していきたい。

### 【数値が特に低かった項目】

番号	調査項目	自校	県
1	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	21.7	29.2
2	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	17.4	22.9
3	地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがありますか。	8.7	16.3
4	5年生までに受けた授業でPC、タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。(ほぼ毎日と回答した割合)	6.5	12.6
5	(算数) 解答時間は十分でしたか。	41.3	51.4

#### 分析と取り組み

- ・家庭学習において、与えられた宿題はできるが、自分で計画を立てて勉強している児童が少ない。年間5回実施している「家庭学習がんばり週間」において、自分の家庭学習について計画、実施、振り返りをさせ、自分の学びをコーディネートできる力を身に付けさせたい。さらに、各学年の家庭学習目標時間を満たす家庭学習として自主学習への取り組みを勧めていきたい。
- ・算数だけでなく、国語においても解答時間が足りなかったと回答した児童の割合が多かった。問題文を読んで、理解するまでに時間がかかることが原因だと思われる。読解力向上の為に、ドリル学習や新聞記事を使って、長文を読ませる学習を取り入れることを引き続き全校で取り組んでいきたい。

### 【6年生 国語科】

#### 全体の概要

- ・全体的にみると県平均をやや下回っていた。
- ・観点別にみると、知識・技能については、全国平均、県平均とほぼ同じである。思考・判断・表現については、全国平均、県平均を大きく下回っていた。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<p>○漢字の書き取りについては、無回答率は低いですが、正答率も低い。書こうとする意識はあるが、当て字になり、文脈から意味を推測できていない。</p> <p>○話し合いにおいて友達の発言の理由として適切なものを選ぶ問題はよくできていた。日頃の話し合い活動(あいあいタイム、トーキングタイム)での交流の成果だと考えられる。</p>	<p>○漢字の書き取りの宿題については、ほぼ毎日提出しているが、ただ写す作業になっているので、方法を改める必要がある。タブレット活用、ミニテスト、ワークシートの工夫等熟語の意味と対応させ、意味とセットで覚える工夫が必要。辞書の活用も考えられる。</p> <p>○あいあいタイム、トーキングタイムを継続し、話し合い活動に慣れ、習慣化していく。話し合いの場を文章にした問題文を解かせる等、テストとして文字になったとき、具体的場面が想像しやすいようにする。</p>

思考・判断・表現	<p>○条件に合わせて、文章を書くことができていない。</p> <p>○物語文を読んだときに、人物像や物語の全体像を具体的に想像することや、筆者が読者に訴えていることが読み取れていない。</p>	<p>○条件を設定した文章を書く活動を増やす。作文を書かせた時には、互いの文章表現のよさを話したり、文章で書いたりして伝え合う学習を取り入れる。</p> <p>○物語文では、筆者が訴えていることを読み取らせるために、文章に線を引いたり、挿絵を使って情景を思い浮かばせたりさせる。普段から、朝のぐんぐんタイムを使って読み取りの問題に取り組ませたり、やや長い文章（新聞記事の活用も）を読ませたりする学習を設定する。</p>

## 【6年生 算数科】

### 全体の概要

- ・全体的にみると県や全国平均とほぼ同じだった。
- ・観点別にみると、知識・技能については、全国平均、県平均をやや下回っていた。思考・判断・表現については、全国平均、県平均とほぼ同じだった。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<p>○割合の問題で、比べる量を求める問題はできていたが、百分率で表された割合25%を分数<math>1/4</math>で表すことができていない。百分率と、分数の関係が結びついていない。また、ジュースの量が半分になっても、果汁の割合は変わらないことが理解できていない児童が非常に多かった。</p> <p>○ひし形を描く問題では、プログラミングと絡めて、論理的に図形を描くことができていない。</p>	<p>○割合についての理解を深めるために、体験的活動と具体的操作をなるべく取り入れる。図や数直線を用いて、百分率、分数、小数についての関係性をとらえられるようにする。</p> <p>○プログラミング教育で、論理的思考力を育むと共に、問題を読む力の育成が必要。読まないで解けない問題に慣れさせる。</p>

<b>思考・判断・表現</b>	<p>○回答のモデルが示してあり、それに合わせて数や式を変えて記述すると正解を得ることができる問題だったが、指示された複数の条件を全て満たすことができず、条件不足で誤答となっている児童が多い。また、無解答の児童の割合も多い。無解答の児童は、文章の理解が難しく、配慮を要する児童がここに含まれていると考えられる。</p>	<p>○習熟において、知識・技能に時間を使ってしまうことが多いので、数学的な見方・考え方を養う問題も取り入れていく。文章を読む力をつけるため、読書や問題文に線を引く作業をこれからも継続していく。場面を想像する力をつけるため、問題文を絵や図で表す作業を低学年のうちから習慣づけていく必要がある。</p>
-----------------	---	--

## 【6年生 理科】

### 全体の概要

- ・全体的にみると全国平均、県平均とほぼ同じである。
- ・観点別にみると、知識・技能、思考・判断・表現共に全国平均、県平均とほぼ同じである。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
<b>知識・技能</b>	<p>○メスシリンダーの名前や正しい扱い方についての正答率が低かった。正答率の高い児童と低い児童の両極化が見られた。</p>	<p>○実際に実験したり、考察したりしたことは前学年の内容でも覚えている傾向が見られたので、器具の数が少ないこともあるが、できるだけ一人ひとりに器具を触らせたり、実験させたりする。</p>
<b>思考・判断・表現</b>	<p>○無回答率は、県や全国と比較すると高くはないが、問題の後半に行くにしたがって、無回答率が上がっている。時間不足のため、後半の問題が解けなかった児童が見られる。</p> <p>○実験の結果をもとに、根拠を記述する問題では正答率が、県・全国平均を上回っていた。</p>	<p>○問題を解く際に、時間配分を考えて解く方法を教える。</p> <p>○授業において、できる限り一人一人実験させたり自分の言葉でまとめさせたりする学習をこれからも継続していく。</p>